

令和2年9月7日

# メロディと編曲の関係性

東放学園音響専門学校 音響技術科  
1年F組 千葉峻平

## 目次

- 研究概要
- 前期活動報告
- 後期活動予定

## 1. 研究概要

今回、小山内ゼミに入り研究したいと思った内容は、「同じメロディに対してコード進行や BPM などその曲のアレンジを丸々変えてしまったらその曲の印象はどう変わるのか」ということである。

私は、レコーディングやミキシングを学びたいと思い音響技術科に入学したが、音楽そのものを作ることも好きである。文章だけだとあまりピンとこないと思うので大雑把に説明する。

楽曲大まかにその曲の主体を担うメロディ、土台となるコード進行、曲の速さである BPM(テンポ)、その楽曲内で使われるさまざまな音色や楽器、と楽曲を構成するうえで欠かせないものが結構ある。その中でもメロディは特に主張が激しいと自分では思っており、なんならメロディ曲としては成立してしまう(鼻歌など)。なので今回は、この最も主張が強いであろうメロディだけはそのまま、その他の楽曲攻勢に必要なものをすべて変えたら一体どうなるのか、というのが今回の研究内容である。前期・後期の1年かけて研究していきたいと考えている。

## 2. 前期活動報告

前期では、まず楽曲それぞれの特徴を分析してそこからメロディと編曲の関係性について調べていった。今回はレミオロメンさんの3月9日を例として研究した。

この曲は、2005年リリースの旅立ちをテーマにしたバラード調の超名曲である。

聴いていただくとわかるように旅立ちや別れをテーマにしているだけあってかなりローテンポでマイナー調な進行により寂しさや悲しさが伝わってくる感じがする。

この曲のコード進行から見ていく。

Dm Am A# C F  
瞳 を閉じれば あなたが  
Dm C A# C F  
まぶたのうらに いることで  
Dm Am A# C F  
どれほど強くなれたでしょう  
Dm C A# C F...  
あなたにとって私も そうでありたい

まず前提としてこの曲のキーは「F メジャー」である。上のコード進行はサビからだが、注目してほしいのは頭のコード「Dm」である。この進行は6341進行といい主にAメロから展開を変えたりするBメロなどによく使われることが多いのだが今回はサビに使われている。まず6341進行とは何なのかを説明していきたい。

各楽曲にはキーが決められていて、先ほども記載したように今回の3月9日のキーは「F メジャー」である。このキーによってメジャースケールに含まれる七つの音それぞれを起点として作られた、七つのコードによるグループ。それを「ダイアトニックコード」と言う。

「F メジャー」のダイアトニックコードは以下のようなものだ。

### 三和音

A musical staff in G clef and common time. It shows seven chords: F, Gm, Am, B♭, C, Dm, and Em(♭5). Below the staff are Roman numerals: I, II<sup>m</sup>, III<sup>m</sup>, IV, V, VI<sup>m</sup>, and VII<sup>m(-5)</sup>.

### 四和音

A musical staff in G clef and common time. It shows seven chords: FM7, Gm7, Am7, B♭M7, C7, Dm7, and Em7(♭5). Below the staff are Roman numerals: I<sup>M7</sup>, II<sup>m7</sup>, III<sup>m7</sup>, IV<sup>M7</sup>, V7, VI<sup>m7</sup>, and VII<sup>m7(-5)</sup>.

先ほど言っていた「6341」という数字はこのダイアトニックコードに基づき出来た進行で、左から数えて6がVI<sup>m</sup>なので「Dm」、3がIII<sup>m</sup>なので「Am」、4がIVなので「B♭」、1はIなので「F」となる。なのでさびの進行は6341進行だということが分かった。何か物寂しさを感じるのはこの進行でDmから始まるのがかなり関係しているものだと考える。

ではここから本題である。このサビをまるっきり編曲を変えたらどこまで印象が変わるのであるか。今回の曲はバラード調なので思い切って真逆の曲調にしてしまった。ということでアニソン風3月9日にしてしまうことにした。今回変更を加えるのはコード進行と楽器アレンジなどである。メロディは一切変えない。

まずは、本来の進行でのサビを聴いていただきたい。(音源1：原曲進行例)

ピアノとメロディだけだが本家通りのメロディ、進行なのでこれだけでも「3月9日」だと言ことは一発でわかるだろう。

ではこの音源のコード進行をまるっきり変えてみたので聴いていただきたい。(音源2：コード進行変更例)

おそらく初見でいきなり聴いたら何の曲か一瞬わからなくなると思う。

今回コード進行をまるっきり変え、さらにかなりアニソン風な遊び方をしたので結構複雑である。文字で書きだすと、

F→Gm7-5→A7→Dm7→Cm→F→B♭→Am→Dm7→B♭→C→Csus4→F→Gm7-5→A7→Dm7→F/C#→Cm7→F7→B♭→Am→D7→B♭→C→F

と本家に比べてコードがかなり詰め込まれたわけのわからないことになっている。

というのも本家の BPM が 76 なのに対し、変更後はほぼ倍テンの 180 になっているためその分コードが入る。しかしそれに対してメロディの速さはほとんど変わっていないので無駄に詰め込まれた感じになっているのだ。

この進行のポイントはまず、本来のこの曲のキーである「F メジャー」から進行が始まっていることがある。この進行は通称「カノン進行」と呼ばれ、現代の邦楽などではよくつかわれているのだがこの進行をさらにアニソンっぽくしたのが上の進行である。本来のカノン進行は、「I | V | VI<sup>m</sup> | III<sup>m</sup> | IV」なのだがアニソンによく使われる手法として、「I | VII<sup>m</sup>7-5 | III7 | VI<sup>m</sup>7 | V<sup>m</sup>7 | I7 | IV」とかなり複雑な進行になる。アニソンの参考例として、最近新作が発表された「涼宮ハルヒの憂鬱」より ED テーマの「ハレ晴レユカイ」のサビでは上記の進行が使用されている。(参考 URL : [https://youtu.be/kqB1D0NW\\_EQ?t=33](https://youtu.be/kqB1D0NW_EQ?t=33)) この進行はアニソンではかなりの頻度で使用されているので好きなアニソンの進行を調べてみたらこれだったってことは結構ざらにある。そういうその曲の「ぽさ」というのを出すのにコード進行はかなり重要な部分なようだ。

このように一つのメロディに対して、コード進行をまるっきり変えるだけでその曲の印象はがらりと変わってしまう。かなり満足のいく結果となった。

コード進行を変えるだけでもここまで変わるのなら楽器隊などの編成もまるっきり変えたらどうなるのかも実験してみたので聴いてみてほしい。(音源 3 : 編曲例)

本家の物寂しさや悲しさはみじんも感じないさわやかな感じになってしまっている。楽器編成は、ギターを左右に1本ずつ、ベース、ドラム、ピアノ、シンセオルガンとアニソンという割にはかなり少ない編成だが楽曲の土台としては成立しているのでよしとする。

### 3. 後期活動予定

前期では、すでに世に出回っている楽曲を取り扱い実験してみたので、後期では1から楽曲を制作する方向で活動していきたい。すでに世に出回っている今回の楽曲「3月9日」のようにすでに曲調が決定してゐるのではなく、1からメロディを制作し、2パターンの編曲を行う。その二曲で何かしらの形式でアンケートを行い、票の多かったほうでフルで楽曲を制作し、動画サイトに乗せるまで出来たらよいと考えている。そのためにもそれぞれの曲調の特徴をしっかり研究し、制作していきたい。

以上で前期活動報告を終わる。